

「みんなちがって、みんないい。」 様々な学び方を理解しよう。」

◎ “こんな風に思っていないですか？”

「特別支援教育！？ 最近よく聞くけど・・・。
まあうちの子には関係ないわね。」

特別支援教育とは、

自分の価値に気付き、チャレンジする力を育てる教育

周りのみんなが気づいてあげる 理解してあげることも大事



◎今、時代はこんな流れです。「**インクルーシブ教育**を推進しましょう！」

インクルーシブ教育：障害の有無にかかわらず、**すべての子どもが可能な限り同じ場で学ぶこと**で多様性を認め合うとともに、特別な支援が必要な子どもも一人一人の実態に応じた適切な学習環境の用意や支援を行うことのできる**多様で柔軟な教育**。

ちょっと難しそうな言葉ですが、今、様々な場面で話題になっていることをご紹介します。「インクルーシブ教育」こんな言葉をご存知ですか。人は誰もが違う学び方をし、誰もが違う特性を持っています。例えば、何かを覚えるときに、たくさん書いて覚える人もいれば、何度も読んで覚える人もいますよね。こうした多様性を認め合おうということです。

じゃあすべてが特性だから・・・みんな認めよう！ではない。

右のような絵は×。

いろいろな学び方をする人がいるけど、ルール・マナー違反はだめですね。そのルールやマナーを学ぶ場所は教室・家庭ですが、理解・習得するには差があります。こうした差異を埋めるために学習をするのが**特別支援教室(すまいる教室)**です。

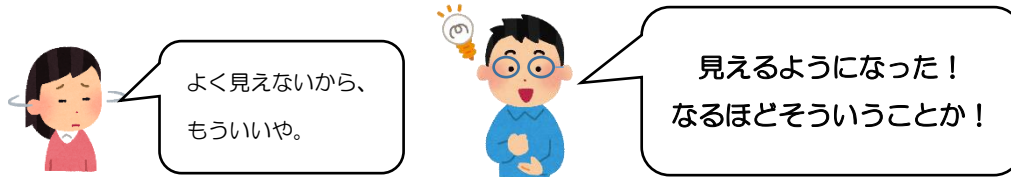


**こんな気持ちをもつと、
周りも気楽です。**

苦手なことなのかな？
これから学んでいくんだろうな～。

「目が悪い人はメガネをかける。」のと同じこと

児童は支援が必要な場面において、様々な学習環境を準備されます。例えば、字を書くこと、文章を読むことが苦手な子は拡大したプリントを使用する、計算が苦手な子に対しては、計算の単元以外では電卓を使うなどです。



「**なんであの子だけ！**」ではなく、「**あの子も頑張っているんだ！**」

「**あの子は特別なの。**」ではなく「**みんな特別。**」

こうした考え方が当たり前の教室に。支援を受けている児童は「自分は〇〇が苦手だから、それはみんなとは違うもので補っているんだよ。」と自信をもって伝えられる、周りも「なんで、あの子は違うプリントなの？」「なんで電卓を使っているの？ずるい！」ではなく、その必要性があることを理解し、認めることができる。こんな風に考えられる子どもたちを育てていきたいと思います。

◎そうした子どもたちを育てるには・・・まず

教職員、保護者を含めた大人達が理解を深め、

こうした考え方を当たり前のようにもつことが必要！！

お子さんのことで、ご心配なこと、悩まれていることがありましたら、校長、副校長、スクールカウンセラー、担任または特別支援コーディネーターまでご相談ください。